

# 人間学会 ニュースレター

上智人間学会  
2023年5月8日発行

1. 第51回大会のご案内
2. 研究発表・紀要原稿の募集について
3. 第50回大会報告記
4. 役員会・事務局からのお知らせ

## 1. 第51回大会のご案内

薫風の候、皆様にはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

次回大会につきまして、下記の要領で開催を予定しておりますので、ご案内申し上げます。

期日：2023年9月1日（金）・2日（土）

場所：レクトーレ湯河原（神奈川県足柄郡湯河原町）【予定】

### テーマ：戦争と人間

教皇フランシスコは回勅『兄弟の皆さん』で、兄弟関係を破壊する戦争の不正義を考察しています。人権・環境を破壊する戦争は人類の全人的発展と相容れないと確信する教皇は、国連憲章が示す戦争回避の道筋の意義を確認します。さらに、現代の軍事兵器が制御不能な破壊力を備えるようになった現状や、ある戦争が別の戦争を引き起こしてきた歴史について学ぶなら、カトリック教会をふくめ過去の世代が紛争解決の手段になると考えた「正戦」は、今日では成り立たないと訴えます。「二度と戦争をしてはなりません」（FT258）。

教皇回勅は、非暴力平和主義の理念を掲げ、軍事力に頼らない国際関係の構築を宣言する日本国憲法と通じ合っています。ところが、ロシア・ウクライナ戦争の開始後、日本ではメディア報道が「正戦」はあり得るという社会的雰囲気醸成し、政府は軍拡による国家安全保障という路線をひた走り、憲法の平和主義の理念を空文化させています。

そこで本年度の大会では「戦争と人間」をテーマとして取り上げ、「他者のために、他者とともに」というキリスト教ヒューマニズムの理念に基づいて、この危機的な状況に向き合う人間の課題と可能性を再考したいと思います。

今回は宿泊形式での開催となります。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

## 2. 研究発表・紀要原稿の募集について

### ☆第 51 回大会研究発表の募集

上記の大会テーマを共通課題として、研究発表を募集いたします。(質疑をのぞき 25 分程度)  
なお、研究発表は他に発表したことのないもので、人間学に関係した内容に限ります。

【発表応募締切】 2023 年 6 月 23 日 (金) 必着

応募を希望の方は、メールで事務局にご連絡ください。折り返し申込フォームをお送りします。

【発表応募に対する回答通知】

2023 年 7 月上旬までに、応募に対する回答通知を本人宛に送付します。

【発表概要の事前提出期限】 2023 年 8 月 25 日 (金)

A4 版で 3~5 枚、原則として Word ファイルや PDF ファイルでの提出をお願いいたします。

### ☆『人間学紀要』第 53 号論文の募集

2023 年度紀要 (2024 年 3 月発行予定) の原稿を、下記の規定に基づき募集します。論文は査読の上、掲載の可否を通知いたします。掲載可の場合でも、内容により加筆修正や掲載区分の変更などをお願いする場合があります点をご了承下さい。

【論文応募締切】 2023 年 10 月 6 日 (金) 必着

所定の申込フォームに記入の上、原稿およびデータと合わせて、メール添付にて事務局へお送り下さい。提出をご希望の方にはフォームをお送りしますので、事前にメールにて事務局までご連絡ください。

【応募に対する回答通知】

2023 年 11 月末までに、応募に対する回答通知を文書で本人宛に送付します。

【投稿規定】 (一部変更がございますのでご注意ください)

- ・応募資格を有する者は、本学会の会員のみとする。
- ・他に発表したことのないもので、人間学と関わりのある新原稿であることとする。
- ・論文は 16,000 字以内、研究ノートは同 8000 字枚以内 (いずれも脚注を含む) 相当とする。
- ・投稿された原稿は、複数名による査読の上、編集委員会にて掲載の可否を決定する。審査の過程で内容の修正や掲載区分の変更を求める場合があるが、その場合は編集委員会が採否を判断する。
- ・応募論文のほか、編集委員会からの依頼原稿や報告記などが掲載される場合がある。
- ・2 号連続しての投稿は原則として認めない。
- ・原稿は所定の期日までにメール添付にて学会事務局アドレス (ningengakkai@gmail.com) 宛に提出すること。
- ・原稿は原則として Word ファイルによる作成 (A4 版横書・40 字×30 行) とする。
- ・図表や写真を使用する場合は、十分な大きさのデータ (pdf または jpeg 等) で提出すること。
- ・原稿には日本語表記に加えて、英文のタイトルおよび執筆者氏名を標記すること。
- ・原稿冒頭に掲載するため、400 字以内の要約を添付すること。
- ・掲載された論文の著作権は本学会に帰属し、その承諾は応募時の申込書において確認する。

### 3. 第 50 回大会報告記

去る 2022 年 9 月 9 日(金)・10 日(土)の 2 日間にわたり、上智大学において第 50 回大会が開催されました。「隣人性と人間教育」というテーマのもと、3 年ぶりに対面形式で実施致しました。

初日の基調講演では「教皇フランシスコ『兄弟の皆さん』と Christian Humanism」というタイトルのもと、光延一郎先生(上智大学)にお話しいただきました。上智大学における必修科目「キリスト教人間学」の歴史を振り返りつつ、その基盤となるカトリックの人間観を、教皇フランシスコの回勅『兄弟の皆さん』にうちに読み取り、それを「いつくしみと和解」の「インテグラルな関係」として規定した上で、その意味を『現代世界憲章』やイエズス会教育の理念等に照らし合わせて論じ、さらにキリスト教ヒューマニズムの基盤となるペルソナ概念の多様な内実に至りまで掘り下げて考察されました。人格の完成は、神の愛に基づいて自分を愛し、その愛において他者を愛することにのうちに存する、という見解は、豊かな示唆に富むものでした。

続いてワークショップ「〈隣人愛〉を哲学する～共感とケアの地平」が行われました。菊地了氏(上智大学)は、「よいサマリア人とは」と題して、無関心であることに憤りをもち、差異を横断した生きた関心のネットワークを構築するために、マックス・シェーラーやディートリッヒ・フォン・ヒルデブラントの現象学的考察に基づきながら、人格の尊厳はいかにして知覚可能になるかという問いを追求されました。続いて崎川修氏(ノートルダム清心女子大学)は、「共感から『つながり』へ～ケアのプロセスと隣人愛」と題して、他者に対して共感が成り立たないような場合においても、ケアを行うことは可能かという問いを提起し、振る舞いを引き起こす感情ではなく、振る舞いに結びついた感情の重要性に着目し、理解を超えた他者のナラティブに耳を傾け、「分散し滲み合う共存」の可能性を提案されました。その後、提題者間、またフロアの参加者との間で、興味深い質疑応答が展開され、白熱したシンポジウムになりました。その後、総会が行われ、会長選挙の結果、次期会長として武田なほみ氏(上智大学)が選任されました。

2 日目は、瀬本正之神父の司式によるミサから始まり、その後は 3 名の会員による研究発表が行われました。島村絵里子氏(上智大学短期大学部)は「人間主体の内にある『美への志向性』～ロナガンの思想を手掛かりに」と題し、バーナード・ロナガンにおける美に対する志向的意識の構造分析を通じて、そこに見られる 5 段階の契機があり、次第に深まりゆく可能性が認められることを指摘されました。続いて桑野萌氏(金沢星稜大学)は「自己・他者・超越への問いをめぐって～ペドロ・ライン=エントラルゴの人間学から」と題し、スペインの現代思想家ラインの哲学的人間学の歴史的・思想史的背景を明らかにした上で、自己の存在への問いが、私を超えて私を生かす超越者への問いへと行き着かざるをえないことを示唆されました。最後に、吉川まみ氏(上智大学)は「「見えない隣人」の可視化と大量消費の隷属からの解放～環境問題の構造的理解にもとづく「環境教育」のキリスト教人間学的展開」と題し、ビョン Chol・ハンの現代社会批判をはじめとする多様な現代社会理論に目配りしながら、消費社会の問題点やヨハン・ガルトウングの平和論等を論じ、環境問題に対していかなる教育的アプローチが可能であるかを提案されました。

コロナ禍のため懇親会は行われませんでした。久しぶりに会員が一同に会し、多くの知的刺激を得る機会となり、第 50 回の節目にふさわしい充実した大会になったように思います。(記: 丹木)

#### 4. 役員会・事務局からのお知らせ

★昨年4月に学会事務局の連絡先を変更させていただきましたが、本年4月1日より、下記のとおり、再度連絡先を変更いたします。（下線部が変更箇所です）

新連絡先：東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学神学部 武田研究室内 上智人間学会事務局

メールアドレス：ningengakkai@gmail.com

引き続き電話、FAX等によるお問い合わせ、ご連絡はお受けできなくなっております。誠に恐縮ですが、御用の際はメールもしくは郵便にてお願いいたします。

これまで本学会は、上智大学の教学組織と連携して『人間学紀要』を発行して参りましたが、2023年度以降の『紀要』は、教学組織からの支援を受けない純粋な学会誌として存続していくこととなりました。そのため、学会事務局の連絡先も学会員の個人研究室内に移させていただきました。今回の変更につきましては、昨年9月の総会において変更された会則、および新たに設置された「上智人間学会事務局に関する規程」の設置に基づいて進めさせていただいております。

★2023年度の大会は久しぶりに大学を離れ、湯河原にて宿泊合宿形式での開催を予定しております。基調講演は、近現代のロシア宗教史をご専門とされている、井上まどか先生（清泉女子大学）をお願いしております。また、憲法や平和の問題をめぐってのワークショップなども企画中です。会場詳細は7月のニュースレターにてご案内いたします。

★2023年度の会費納入については、7月のニュースレターに振り込み用紙を同封いたしますので、今しばらくお待ちください。

上智人間学会ホームページアドレス

<http://ningen-gakkai.org>

上智人間学会 役員会／事務局

会 長 武田 なほみ  
幹 事 崎川 修 稲葉 景  
紀要編集 丹木 博一 菊地 了  
会計監査 久保 文彦

連絡先（2023年4月より）

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学神学部武田研究室内 上智人間学会事務局

E-mail:ningengakkai@gmail.com